

県立山田高校で出前授業 「食」の防災について考える

町の食育推進事業の一環として、食育出前授業が10月24日と25日に県立山田高校（関川繁雄校長、生徒215人）で開かれました。「自分の防災は自分で考えよう」をテーマに、震災当時の「食」に関する状況を振り返り、今後の備えについて町食生活改善推進員を交えてグループ討議を行いました。生徒らは、震災の経験を基に、普段の生活の中でどのように「食」について備えるかなど、自分なりの防災計画を作成。非常食体験では、お湯をかけるだけで出来るアルファ米や手軽に作るポトフを調理・試食し、防災への心掛けを再確認していました。



ミニバスケットボール交流大会 葛巻・伊保内チームを招待

町スポーツ少年団が主催する山田町ミニバスケットボールスポーツ少年団交流大会が10月30日、山田中体育館で開催されました。大会には、町内スポーツ少年団のほか、葛巻ミニバスケットボールクラブと伊保内ミニバスケットボールスポーツ少年団も招待参加。両チームと町内スポーツ少年団とは以前から交流があり、震災時にはバスケット用具などの支援もいただいたことから、その感謝を表したいと、今回の招待が実現。試合は、選手たちのはつらつとしたプレーに歓声が飛び交い、結果は男子が葛巻・伊保内の合同チーム、女子は豊間根ミニバスが優勝を遂げました。

東京の子供たちと意見交換 復興のメッセージを全国へ

11月6日、文部科学省が主催する全国生涯学習ネットワークフォーラム2011が町中央公民館で開かれました。「子ども熟議 子どもたちがつむぎ合う、これからの絆」と題し、山田町と大槌町の小中学生が東京都・宮城県と中継をつなぎ、震災で得た「絆」について意見交換を行いました。東京の児童から「どういった支援が一番嬉しかったですか」の質問に、「物資ももちろんありがたかったが、物資に書かれたメッセージがとても嬉しかった。励ましの言葉一つ一つに支えてもらいました」と回答。その後、グループ毎に復興へ向けたキャッチフレーズを作成し、「みんなが家族の元気な明るい町」「わたしたちのパワーを世界中へ」など、子供たちは復興への力強い言葉を全国へと発信していました。



力強いキャッチフレーズを掲げ、説明を行う子供たち（上写真）／一人一人が震災で感じた意見を活発に話し合っていました。